

2022年、押原小学校は地域・保護者に支えられ、コミュニティ・スクール9年目を迎えました。

学校と家庭・地域とをつなぐコミュニティ・スクール通信



昭和町立押原小学校
CS学校通信 NO.11
令和5年2月16日
校長 深澤 秀興



■ 校長室の窓辺より ■

年度末を迎えて

2月10日の雪を喜んだ子どもたちには誠に申し訳ないですが、週明けの月曜日には雪が残らず、その後の学校生活、支障をきたすことがなかったことに、とても安堵しています。

二十四節気によると、2月19日～3月4日頃は「雨水」といって、降る雪が雨へと変わり、雪解けがはじまる頃とのこと。昔から農耕をはじめめる時期の目安とされ、やわらかな日差しの中、草木がほんのり色づく様子や、春霞を楽しめる季節とされているそうです。本年度の卒業式は3月17日金曜日。2月20日からは、いよいよ外部講師をお招きしての卒業式に向けての合唱練習が始まります。本校もいよいよ、年度末の慌ただしい時期を迎えます。



【北風に耐えて咲く押杜の白梅】

2月13日～20日にかけては、本年度最後の授業参観及びPTA学年部会を開催させていただきました。御多用の中、多くの保護者の皆様にお越し頂きまして、誠に有難うございました。4月以降、日々子どもたちの様子を間近で見てきた私には、子どもたちの成長が実感として捉えられ、とても嬉しい授業参観となりました。中でも、一人一人の個性溢れる発表を見せてくれた2年生と、学年みんなで1つのことに取り組む合奏を見せてくれた4年生、「これぞ押小教育の集大成！」とICT機器を使いこなし、自身の夢を発表してくれた6年生の授業を参観したときには、思わずウルツとしてしまいました。

3月23日に、1年納めの修了式を迎えることを考えると、今年度も残り一月余りとなってしまいました。「1年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、「1年の計は3月にあり」の心意気で、1年間を振り返り、来年度に向けてしっかりと準備を行っていきたいと思います。特に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に引き下げられたとき、コロナ禍の生活と何を変え、また何を元に戻すのか。「青春は密ですから」とは甲子園優勝監督の明言ですが、それこそ「密」が重要な小学校生活に於いて、どこまで許容できるのか。班をつくり、考えを交流するようなことはしてもいいのか。合唱・合奏は元のように行っていいのか。給食は班になって食していいのか。このような授業に係わるだけでなく、PTAの親子行事は復活させてもいいのか。模索は続くと思いますが情報収集をしっかりと行い、充実した「楽校」生活を提供できるよう、準備をしていきたいと思っています。



【卒業式に向け
合唱練習が熱を帯びてきた6年生】

一方、学力向上対策に係わって、「Weekend-studies」の現状はどうか。子どもたちが意欲的に自学に取り組めるようになってきているか。もし、なっていないとするならば、何が課題なのか。ここもしっかりとCheckし、改善を図っていきたいと思います。

今現在、来年度、本校には66名の新入児が入学予定です。この子らを加え、素晴らしい令和5年度を迎えられるよう、しっかりとまとめと準備を行っていきたいと思います。

【裏面も御覧ください】

集団登校を行う一つの意義

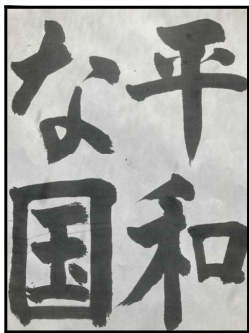
一仕組みを支える、押杜っ子(押小児童)のやさしさー

鼻血を出した低学年児童の手当てをする、高学年児童の姿。照りつける朝日の中、班員を日陰に誘い、水筒の水を飲むように促す班長の姿。これまでもblog等を通じて、登校時に、高学年児童が親代わりに、低学年の面倒をみる姿を、お伝えしてきたところです。過日も、こんなことがありました。築地新居方面から来るしんがりの班と共に、学校に向け歩いていた時のこと。「昭和町役場入口」という信号にもう少しで着くというタイミングで、私は、信号待ちをしている多くの子どもが、なぜか訴えかけるような目で、一斉に私を見ていることに気付きました。近づいていくと、その中の2年生女児が、青いニットの帽子を私に差し出しながら、少々興奮気味に「校長先生、帽子が落ちていました」と訴えかけてきました。なぜ、興奮気味だったのか。私にはすぐに察しが付きました。当日は、みぞれ交じりの寒い朝。「帽子を落とした子どもは、さぞや困るだろう」と、その女児は、落とした子どもの事を心配していたのでした。私は、「有難う」と、その子に礼を言いながら、学校に着いたらすぐに持ち主を探そうと決めました。信号を渡り、北門に入り、外トイレ付近に近づいた時、昇降口方面から1人の高学年女児が走り寄り、登校してきた友達に何かを尋ね始めました。次の瞬間、再び、多くの児童が私に視線を投げかけました。そこで今度は私が、その高学年女児に「どうしたの?」と、問いかけました。するとその女児、私が持つニット帽を指さしながら「それ、1年生の●●さんのです」と。更に聞けば、1年生に代わってニット帽を探しに来たとのこと……。なぜ、本人ではなく、高学年女児がニット帽を探しに来たのでしょうか。なぜ、その女児は、走って探しに来たのでしょうか。私には、答えが分かっていました。女児が大変優しい少女であったことと、これが押小の伝統で有ること。更にこれが、異年齢集団による集団登校を実施する意義であることを。最初にニット帽を拾ってくれた2年3組入江美羽さん、そして走って帽子を探しに来てくれた齊藤梨奈さん。本当にありがたう。誠に立派でした。



海より深い、親の愛

過日、所用で学区を歩いていた折、たまたまお目にかかった保護者様から、「校長先生、書き初め大会の審査は、もう終わったのでしょうか?」との御質問を頂きました。この手の質問は承った経験が無かったものですから、知りうる限りの情報をお伝えし、お別れしました。学校に戻るや、すぐさま学級担任に、審査の進捗状況を確認め、併せてそのお子様の審査結果も聞きました。結果は、見事入選でした。御質問の内容から、結果をお知りになりたいということは察しが付いたものですから、お電和で、結果をお伝えさせていただきました。すると、感謝の気持ちをお伝え頂くと共に、こんなお話をしてくださりました。(以下、概略)親として子どもに習字を習わせたかったが、なかなか事情が許さず、習字に通わせることが出来なかった。そのような中、習字の塾に通わずとも、努力して習えば、入選することも出来るということを、我が子に伝えたかった。また、入選することで、我が子に自信も付けさせたかった、と。そこで、冬休み中は、付きっきりで手ほどきしたほか、書き初め大会直前は親子で早起きし、それこそ毎日、ものすごい枚数の練習をしたとのこと。この話を伺い、なかなか出来るものではないと、深く感心してしまいました。ちなみに、この話を再度担任にすると、教師間で「ビックリするほど上手になったね」と話題にしていたとのこと。改めて、このような保護者様の期待を背負ったお子様方をお預かりしているのだと、身が引き締まりました。



【6年生の課題『平和な国』】

【3月】の主な予定

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1日(水) 賞状伝達式 | 19日(日) 家庭科学習振り返りの日 |
| 2日(木) 安全指導日 | 20日(月) 給食終了 |
| 3日(金) 6年生を送る会 | 21日(火) 春分の日 |
| 5日(日) 家庭学習振り返りの日 | 22日(水) 半日課 (給食なし) |
| 8日(水) 地区集会・集団下校 | 23日(木) 修了式・人事異動発表 |
| 14日(火) 卒業式総練習 | 24日(金) 春休み ~4/5(水) |
| 17日(金) 卒業式(5年生以下休業日) | 27日(月) 離任式 |

【4月】の主な予定

- 6日(木) 新任式・始業式
- 7日(金) 入学式(2年生以上休業日)
- 10日(月) 給食開始(1年生は17日から)
- 21日(金) 授業参観
- 24日(月)・25日(火) 家庭訪問 [阿原・築地]
- 26日(水)・27日(木) 家庭訪問 [押越・中島]



*詳細は学年だより等で、御確認ください。